



## **NTN 株式会社**

2026 年 3 月期第 3 四半期 決算 IR 説明会

2026 年 2 月 3 日

## イベント概要

---

[企業名]	NTN 株式会社
[企業 ID]	6472
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2026 年 3 月期第 3 四半期 決算 IR 説明会
[決算期]	2026 年度 第 3 四半期
[日程]	2026 年 2 月 3 日
[ページ数]	25
[時間]	17:00 – 17:43 (合計：43 分、登壇：18 分、質疑応答：25 分)
[開催場所]	インターネット配信
[会場面積]	
[出席人数]	
[登壇者]	4 名 取締役 代表執行役 執行役社長 CEO（最高経営責任者） 鵜飼 英一（以下、鵜飼）

---

### サポート

日本 050-5212-7790  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



取締役 代表執行役 CFO（最高財務責任者）

山本 正明（以下、山本）

グループ経営本部 コーポレート・コミュニケーション部長

長尾 立雄（以下、長尾）

グループ経営本部 コーポレート・コミュニケーション部

高下 和久（以下、高下）

**[アナリスト名]\***

大和証券

田井 宏介

野村証券

王 博瓊

UBS 証券

佐々木 翼

\*質疑応答の中で発言をしたアナリスト、または質問が代読されたアナリストの中で、SCRIPTS Asia が特定出来たものに限る

---

**サポート**

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス [support@scriptsasias.com](mailto:support@scriptsasias.com)



## 登壇

---

**長尾**：それでは、定刻となりましたので、NTN 株式会社、2026 年 3 月期第 3 四半期決算 IR 説明会を開始いたします。本日はご多忙のところ、当社の決算 IR 説明会にご参加くださり、誠にありがとうございます。初めに出席者をご紹介します。執行役社長 CEO、鵜飼でございます。

**鵜飼**：鵜飼です。よろしくお願いいたします。

**長尾**：執行役 CFO、山本でございます。

**山本**：山本です。よろしくお願いいたします。

**長尾**：事務局はコーポレート・コミュニケーション部の高下と、私、長尾でございます。よろしくお願いいたします。

**高下**：よろしくお願いいたします。

**長尾**：本日の説明会は、ご登録いただいたメールアドレスにお配りした説明会の資料に沿ってご説明いたします。資料は、弊社のホームページにも掲載しておりますので、お手元がない方はご確認をお願いいたします。

本日は初めに、決算のポイントについて社長の鵜飼より説明し、その後、詳細を CFO の山本より説明申し上げます。説明後、質疑応答を行い、18 時に終了の予定です。

それでは早速、鵜飼社長、よろしくお願いいたします。

**鵜飼**：NTN の鵜飼でございます。本日はお忙しい中、当社の決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。また日頃より、株主、アナリストの皆様にはご支援をいただき、この場をお借りして御礼を申し上げます。

決算内容および業績予想の詳細、利益の増減分析などにつきましては、CFO の山本から詳しく説明いたしますので、私からは、2026 年 3 月期第 3 四半期決算のポイントについて説明いたします。

---

### サポート

日本 050-5212-7790  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

2026年3月期第3四半期(4月-12月)

売上高： 6,033億円 (前年同期比△122億円) 内、アフターマーケット向け 1,066億円 (前年同期比 +22億円)  
 営業利益： 193億円 ( " +51億円) 営業利益率： 3.2% ( " +0.9pt )

－ 軸受他

売上高： 2,518億円 営業利益：67億円  
 営業利益率：2.7% **前年同期比 増収減益**

- 日本を中心に自動車向けの需要減、アフターマーケット、産機向けは需要増により増収
- 売価改善、変動費の低減を進めるが、在庫評価を含む規模等減少の影響をカバーできず減益

－ CVJアクスル

売上高： 3,515億円 営業利益：126億円  
 営業利益率：3.6% **前年同期比 減収増益**

- 米州、欧州、中国の需要減少に加え、半導体供給不足の影響もあり減収
- 規模減あるものの、コスト低減に加え、米国関税の売価転嫁も進み増益

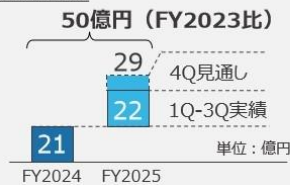
構造改革の進捗(4月-12月)

特別損失

FY2024実績 : 189億円

FY2025計画 : 100億円  
 内)3Q累計実績 : 33億円

構造改革効果



2026年3月期通期業績予想

2025年11月公表の通期予想を据え置き

(参考) 売上高：8,050億円

営業利益：260億円 営業利益率：3.2%

2 ページをご覧ください。

売上高は 6,033 億円、営業利益は 193 億円、営業利益率は 3.2%と、前年同期比で減収となるも、コスト低減、売価転嫁などにより、前年同期比で増益となりました。アフターマーケットビジネスは売上高 1,066 億円となり、前年同期比で 22 億円の増収となりました。

軸受他では日本を中心に自動車向けの需要が減少し、売価改善および変動費の低減などはありませんでしたが、在庫評価を含む規模などの減少をカバーできませんでした。この結果、売上高は 2,518 億円、営業利益は 67 億円、営業利益率は 2.7%となり、前年同期比で増収減益となりました。

CVJ アクスルでは、アジアを除き、需要が減少したものの、固定費の抑制、変動費の低減に加えて、構造改革効果の発現などがありました。この結果、売上高は 3,515 億円、営業利益は 126 億円、営業利益率は 3.6%となり、前年同期比で減収増益となりました。

構造改革では、第 3 四半期までに特別損失を 33 億円計上し、計画通りに進捗しています。また、その効果につきましても、CVJ アクスル事業を中心に、22 億円が発現し、体質改善が進んでいます。

なお、今期の業績予想は、昨年 11 月の公表値を据え置きます。

私からの説明は以上です。

サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

長尾：鵜飼社長、ありがとうございました。続きまして、山本 CFO、詳細のご説明をよろしくお願いたします。

山本：CFO の山本です。ここからは私が説明します。

## ① 2026年3月期 連結主要指標



(億円)	'25年3月期			'26年3月期			増減		
	3Q 実績	4-12月 実績 ①	通期 実績	3Q 実績	4-12月 実績 ②	通期 見通し (今回公表)	合計	対 前年同期 ②-① 除く為替	為替
売上高	2,016	6,155	8,256	<b>2,011</b>	<b>6,033</b>	<b>8,050</b>	△ 122	△ 116	△ 5
営業利益	43	142	230	<b>64</b>	<b>193</b>	<b>260</b>	51	51	△ 0
(率)	(2.1%)	(2.3%)	(2.8%)	<b>(3.2%)</b>	<b>(3.2%)</b>	<b>(3.2%)</b>	(0.9pt)		
経常利益	23	58	105	<b>53</b>	<b>140</b>	<b>130</b>	82	82	0
特別損益	△ 50	△ 56	△ 191	△ 25	△ 29	△ 80	27	27	△ 0
親会社株主に帰属する 当期純利益	△ 61	△ 83	△ 238	<b>6</b>	<b>37</b>	<b>△ 40</b>	120	120	0
棚卸資産	2,667	2,667	2,444	<b>2,607</b>	<b>2,607</b>	<b>2,300</b>	(※) 163	13	150
フリー・キャッシュ・フロー	29	57	197	△ 16	<b>126</b>	<b>200</b>	70	-	-
為替レート 1USD	152.3円	152.4円	152.4円	<b>154.1円</b>	<b>148.7円</b>	<b>147.8円</b>	△ 3.7円		
1EURO	162.5円	164.7円	163.6円	<b>179.3円</b>	<b>171.8円</b>	<b>171.3円</b>	7.1円		
'26年3月期年間配当	<b>11.0円</b>			<b>(中間5.5円・期末5.5円)</b>					

(※)棚卸資産は'25年3月末よりの増減額

3

3 ページをご覧ください。連結主要指標です。

第3四半期累計の実績は、売上高 6,033 億円、営業利益 193 億円、経常利益 140 億円、当期純利益は 37 億円となりました。棚卸資産の残高は 2,607 億円、フリー・キャッシュ・フローは 126 億円です。

売上高や営業利益の増減分析、棚卸資産の増減、キャッシュ・フローの状況については、のちほど説明します。

## サポート

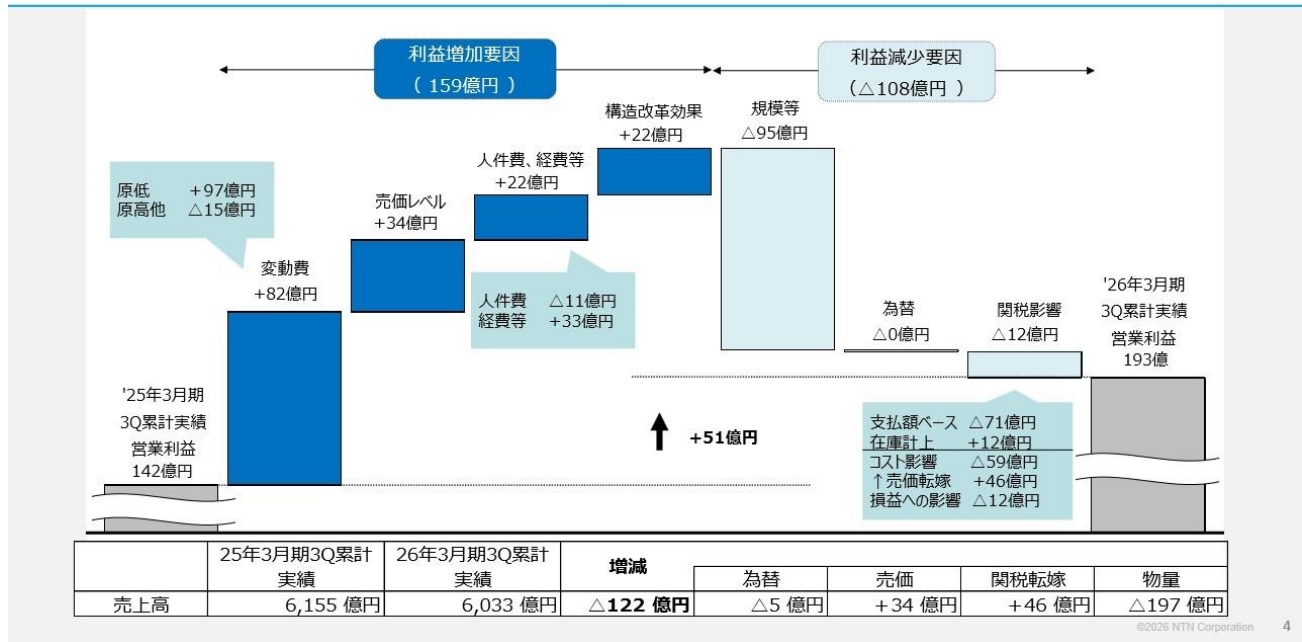
日本 050-5212-7790  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



## ②営業利益増減

『25年3月期 3Q累計<実績>  
vs 『26年3月期 3Q累計<実績>

NTN



4 ページをご覧ください。前期の第3四半期累計実績と当期の第3四半期累計実績の営業利益増減分析の滝グラフです。左端が前期の営業利益額、右端が当期の営業利益額です。

グラフの下の売上高の増減表をご覧ください。為替売価を除く物量では前年同期比 197 億円の販売減です。

右側の利益減少要因で最も大きいのが、販売生産減および在庫評価などによる規模等、マイナス 95 億円です。また、トランプ関税の影響は、費用と売価転嫁の差し引きで、マイナス 12 億円の減益要因となりました。

一方、左側の利益増加要因では、変動費の良化でプラス 82 億円、売価レベルの向上でプラス 34 億円、人件費・経費の圧縮でプラス 22 億円。それに、構造改革効果がプラス 22 億円でした。

## サポート

日本 050-5212-7790  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

SCRIPTS  
Asia's Meetings, Globally

### ③所在地別売上高(グループ内売上高除く)

(億円)	3Q 実績	'25年3月期		3Q 実績	'26年3月期		増減		
		4-12月 実績 ①	通期 実績		4-12月 実績 ②	通期 見直し (今回公表)	対 前年同期 ②-①	除く為替	為替
日本	552	1,597	2,152	535	1,589	2,160	△ 8	△ 8	△ 0
米州	626	2,024	2,695	615	1,939	2,605	△ 85	△ 36	△ 50
欧州	439	1,363	1,863	473	1,377	1,830	14	△ 48	62
アジア他	399	1,171	1,545	389	1,129	1,455	△ 42	△ 25	△ 17
合 計	2,016	6,155	8,256	2,011	6,033	8,050	△ 122	△ 116	△ 5

※2025年3月期 第2四半期より顧客地域別売上高から法人所在地別売上高(グループ内売上高除く)に変更しています。

5 ページをご覧ください。所在地別の売上高です。

②-①の、除く為替の増減欄をご覧ください。前年同期比 116 億円の販売減ですが、先ほど説明した通り、この中には、売価レベルの向上やトランプ関税の転嫁が含まれていますので、物量では 197 億円の販売減です。

地域別の物量ベースの増減を申し上げますと、日本がマイナスの 47 億円、米州がマイナスの 83 億円、欧州がマイナスの 44 億円、アジア他がマイナスの 22 億円、うち中国がマイナス 34 億円、アジア他がプラス 12 億円でした。

#### サポート

日本 050-5212-7790  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

#### ④事業形態別売上高・営業利益



<事業形態別売上高>							増減			(参考)
(億円)	3Q 実績	'25年3月期 4-12月 実績 ①	通期 実績	3Q 実績	'26年3月期 4-12月 実績 ②	通期 見通し (今回公表)	対 前年同期			'26年3月期 通期 見通し (前回公表)
							合計	②-① 除く為替	為替	
軸 受 他	828	2,509	3,407	842	2,518	3,400	9	4	5	3,400
CVJ アクスル	1,188	3,646	4,849	1,169	3,515	4,650	△ 131	△ 121	△ 10	4,650
合 計	2,016	6,155	8,256	2,011	6,033	8,050	△ 122	△ 116	△ 5	8,050

<事業形態別営業利益>							増減		'26年3月期 通期 見通し (前回公表)
(億円)	3Q 実績	'25年3月期 4-12月 実績 ①	通期 実績	3Q 実績	'26年3月期 4-12月 実績 ②	通期 見通し (今回公表)	対 前年同期		
							②-①		
軸 受 他	29	95	137	22	67	90	△ 28		110
CVJ アクスル	14	47	93	43	126	170	78		150
合 計	43	142	230	64	193	260	51		260

©2025 NTN Corporation 6

6 ページをご覧ください。事業形態別の売上高・営業利益です。

まず、上段の売上高の②-①、除く為替の増減欄をご覧ください。合計 116 億円の販売減ですが、先ほどからの説明の通り、物量ベースでは 197 億円の販売減となります。内訳は、軸受他がマイナス 31 億円、CVJ アクスルがマイナス 165 億円です。

次に、下段の営業利益の増減欄をご覧ください。軸受他については売価レベルの向上や変動費の良化、固定費圧縮等の増益要因がありましたが、在庫評価を含む規模減の影響や関税の影響などをカバーできず、前年同期比 28 億円の減益となりました。

一方の CVJ アクスルについては、規模減や関税の影響はありましたが、変動費の良化や売価向上、構造改革効果を含む固定費の圧縮でカバーし、前年同期比 78 億円の増益となりました。

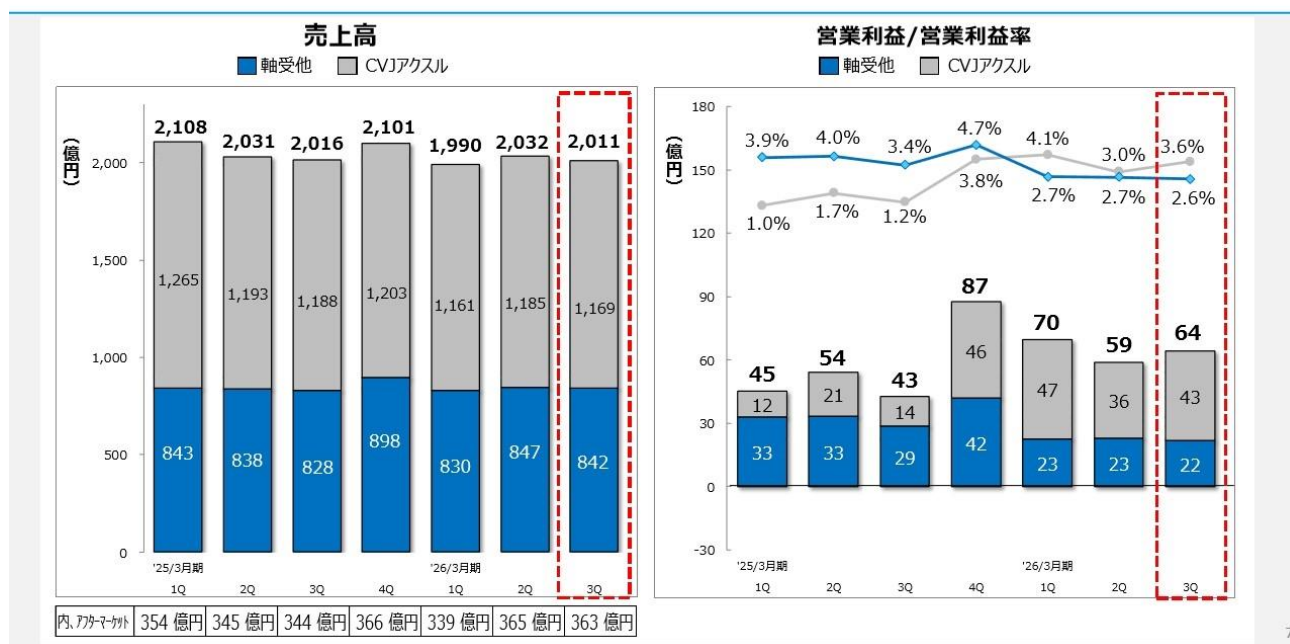
なお、12 月までの実績を踏まえ、軸受他の営業利益の見通しは前回公表値からマイナス 20 億円の 90 億円、CVJ アクスルの営業利益見通しは同比プラス 20 億円の 170 億円を見込んでおります。

#### サポート

日本 050-5212-7790  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



## ⑤事業形態別業績（四半期推移）



7ページをご覧ください。事業形態別の売上高・営業利益額・利益率の四半期別推移です。左のグラフは売上高の推移、右のグラフは営業利益額と利益率の推移です。

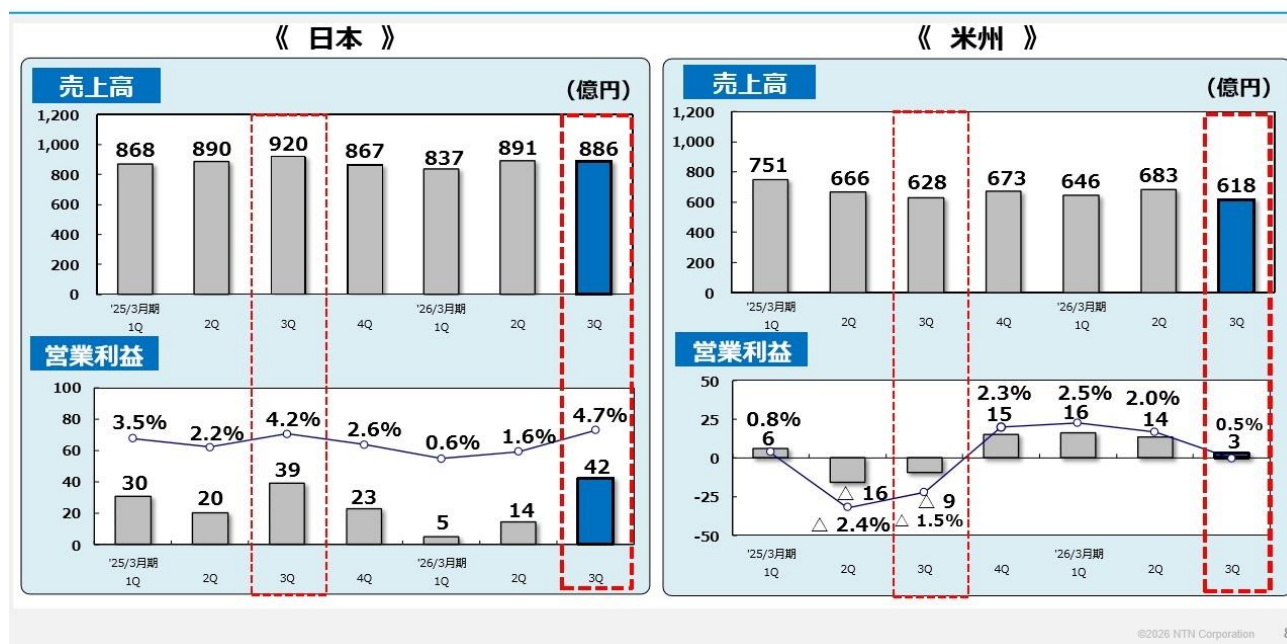
第2四半期との比較で説明します。まず左のグラフをご覧ください。軸受他の売上高は、842億円、第2四半期比マイナス5億円ですが、為替の影響がプラス23億円あり、それを除くとマイナス27億円の販売減です。一方のCVJアクスルの売上高は1,169億円、第2四半期比マイナス16億円ですが、同じく為替の影響がプラス38億円あり、それを除くと、マイナス55億円の販売減となりました。

次に右のグラフをご覧ください。軸受他の営業利益は変動費の良化や為替のプラスはありましたが、規模減の影響もあり、第2四半期から1億円減益の22億円、営業利益率は2.6%となりました。一方のCVJアクスルの営業利益は規模減の影響はありましたが、変動費の良化や為替のプラスなどにより、第2四半期比プラス7億円増益の43億円、営業利益率は3.6%となりました。

### サポート

日本 050-5212-7790  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

## ⑥-1 所在地別 売上高・営業利益（日本・米州）



8 ページをご覧ください。所在地別売上高・営業利益の四半期別推移です。左が日本、右が米州です。前年同期との比較で説明します。

日本の売上高は 886 億円、前年同期比マイナス 34 億円ですが、為替の影響がプラス 8 億円あり、それを除くと、マイナス 43 億円の販売減となりました。営業利益は規模減の影響はありましたが、売価レベルの向上や為替の影響などにより、前年同期比プラス 3 億円増益の 42 億円となりました。

次に、米州の売上高は、618 億円、前年同期比マイナス 10 億円ですが、同じく為替の影響がプラス 22 億円あり、それを除くとマイナス 33 億円の販売減です。営業利益は、変動費の改善や構造改革効果を含む固定費の圧縮を主因に前年同期比プラス 12 億円の 3 億円となりました。

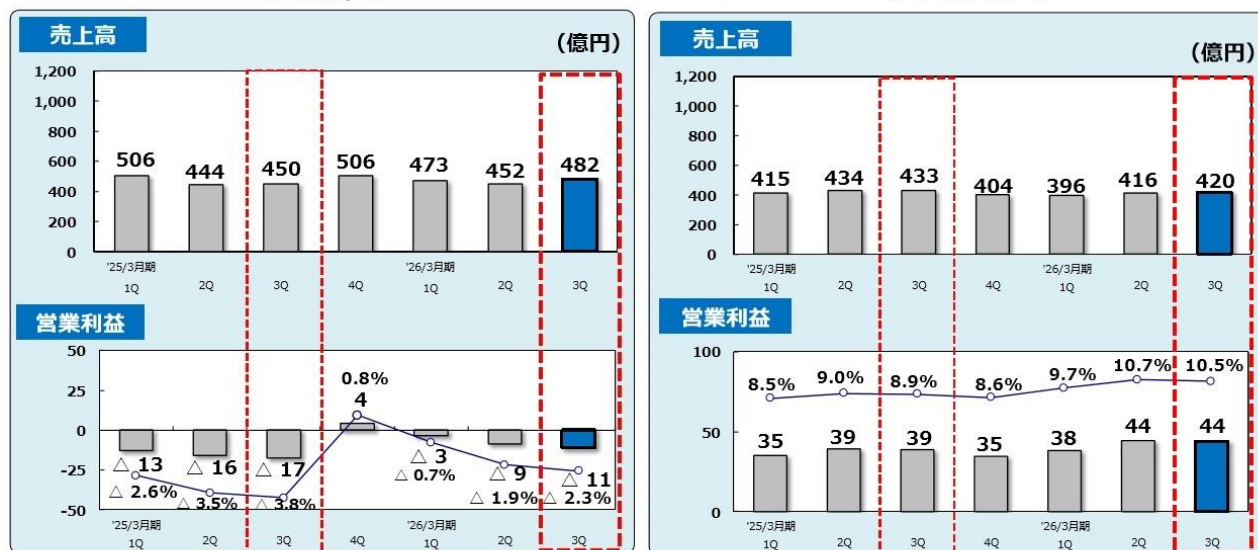
### サポート

日本 050-5212-7790  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

## ⑥-2 所在地別 売上高・営業利益（欧州・アジア他）

### 《 欧州 》

### 《 アジア他 》



次に9ページをご覧ください。同じく所在地別売上高・営業利益の四半期別推移です。左が欧州、右がアジア他です。

欧州の売上高は482億円、前年同期比プラス32億円ですが、為替の影響がプラスで49億円あり、それを除くとマイナス17億円の販売減となりました。

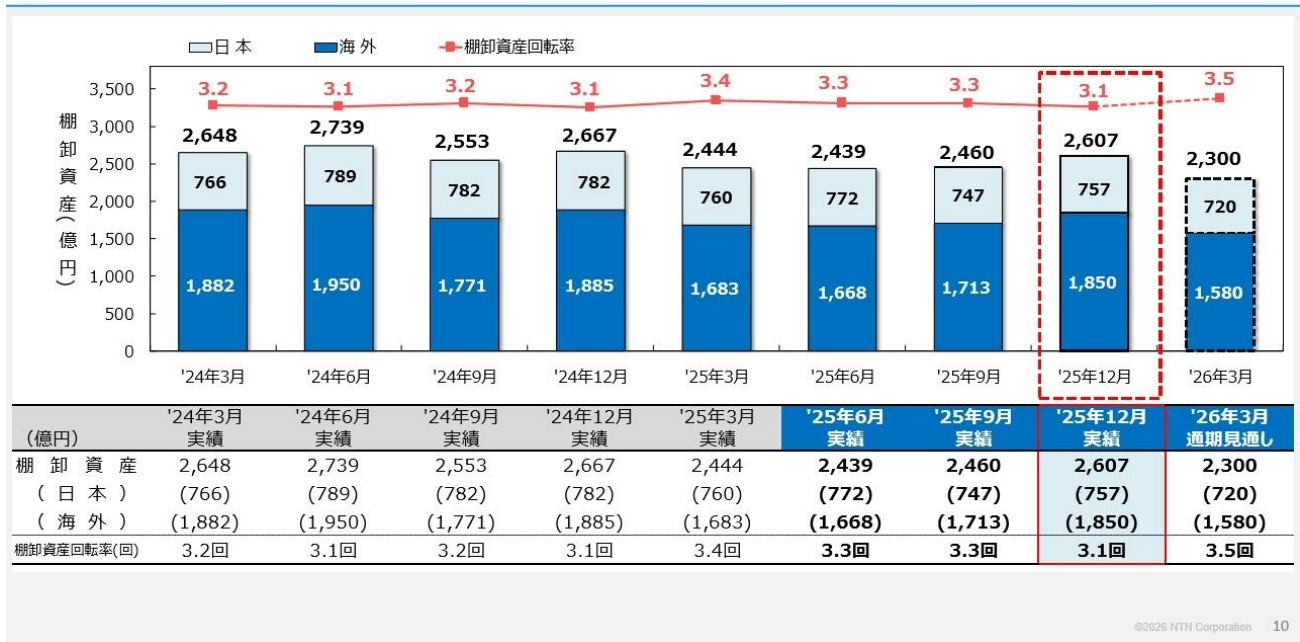
営業損益は規模減の影響はありましたが、変動費の改善、構造改革効果を含む固定費の圧縮などにより、前年同期比でプラス6億円良化し、マイナスの11億円となりました。

アジア他の売上高は420億円、前年同期比でマイナスの12億円ですが、同じく為替の影響がプラスで10億円あり、それを除くと前年同期比マイナス22億円の販売減です。

営業利益は中国での構造改革を含む固定費削減効果や比例費改善効果もあり、前年同期比でプラス5億円の44億円となりました。

### サポート

日本 050-5212-7790  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



©2025 NTN Corporation 10

次に 10 ページをご覧ください。棚卸資産の四半期別推移です。

25年12月末の棚卸資産は2,607億円。25年3月末比プラス163億円ですが、為替の影響がプラス150億円、またトランプ関税の影響がプラス12億円あり、物量では1億円の増加となりました。

12月度は例年、欧米のクリスマス休暇の影響があることに加え、本年は米州のお客さまが調達しているアルミニウム工場火災、および半導体供給リスクの影響を受け、棚卸資産は一時的に増加しました。

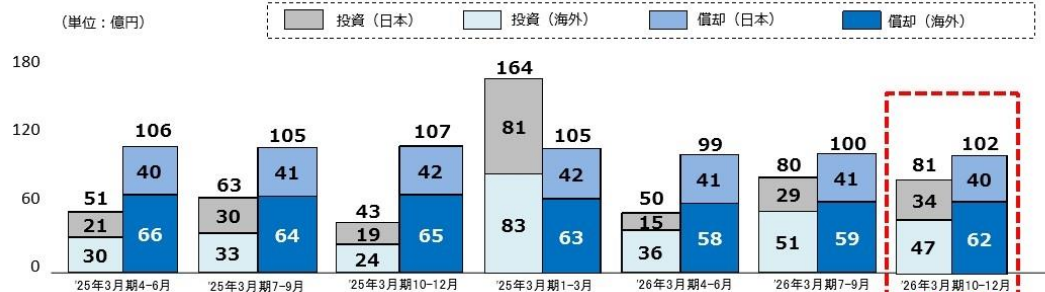
26年3月末の見通しは2,300億円、回転率は3.5回を目標としております。この達成に向け、特に仕掛品、部品、材料、材料在庫の圧縮を進めます。

サポート

日本 050-5212-7790  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



## ⑧ 設備投資・減価償却費



'25年3月期		'26年3月期		増減 ②-①	'26年3月期 通期見通し
(億円)	4-12月実績①	4-12月実績②	通期実績		
設備投資	157	211	322	54	320
(日本)	(70)	(77)	(151)	(8)	(140)
(海外)	(88)	(134)	(171)	(46)	(180)

※他に、無形固定資産投資額があります。'26年3月期 4-12月実績：19億円 '26年3月期 通期見通し：50億円

'25年3月期		'26年3月期		増減 ②-①	'26年3月期 通期見通し
(億円)	4-12月実績①	4-12月実績②	通期実績		
減価償却費	319	301	424	△18	390
(日本)	(123)	(122)	(165)	(△1)	(170)
(海外)	(196)	(179)	(258)	(△17)	(220)

©2025 NTN Corporation 11

次に 11 ページをご覧ください。設備投資と償却費の推移です。

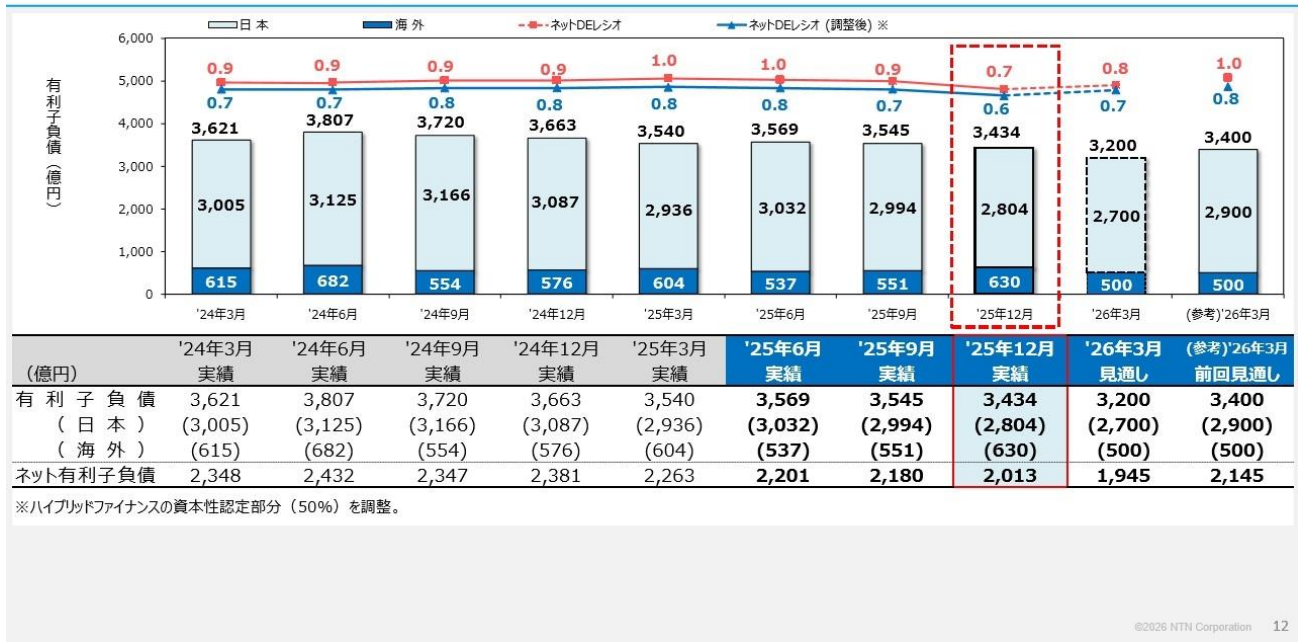
10-12月の3カ月の設備投資額は81億円、減価償却費は102億円となり、4月-12月の累計では、設備投資額は211億円、減価償却費は301億円となりました。どちらも通期見通しの線上と考えております。

なお、設備投資額211億円の地域別内訳は、国内で77億円、米州で28億円、欧州で72億円、アジア他34億円となりました。

## サポート

日本 050-5212-7790  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

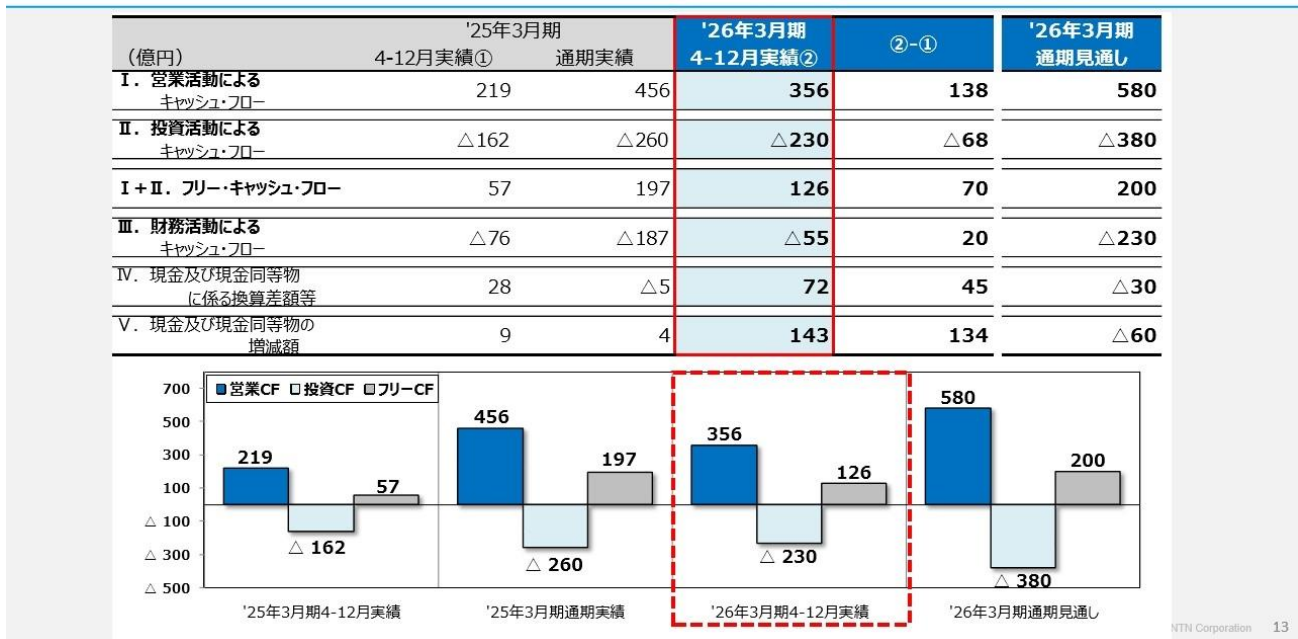
## ⑨有利子負債



次に12ページをご覧ください。有利子負債の推移です。

25年12月末の有利子負債は3,434億円、ネット有利子負債は2,013億円、ネットDEレシオは0.7となりました。12月に転換社債の転換が完了しましたので、26年3月末の有利子負債は3,200億円、ネット有利子負債は1,945億円、ネットDEレシオは、0.8を見込んでおります。

## ⑩キャッシュ・フロー



## サポート

日本 050-5212-7790  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

13 ページをご覧ください。キャッシュ・フローの推移です。

第3四半期累計の営業キャッシュ・フローは356億円、フリー・キャッシュ・フローは126億円となり、概ね計画通りの進捗と考えております。通期の営業キャッシュ・フローは580億円、フリー・キャッシュ・フローは200億円を見込んでおります。

私からの説明は以上です。

**長尾**：山本 CFO ありがとうございました。

---

## サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



## 質疑応答

---

**長尾 [M]**：それでは質疑応答の時間へ移りたいと思います。

質疑応答では、ご質問のある方を事務局より指名いたします。

それでは、UBS 証券の佐々木様、ご質問をよろしくお願いいいたします。

**佐々木 [Q]**：UBS 証券の佐々木です。私から簡単に 3 点、お伺いできればと思います。

まず 1 問目ですが、先ほど山本 CFO のお話、ありがとうございました。そこで改めて細かい数字のところは後でお伺いしたいと思います。この 3 クォーターのご実績を社内でどのように評価されているかというのも、もしよろしければぜひ軸受と CVJ に分けて、それぞれどう計画対比で進捗してとか、あとは取り組み等も含めて、どのように評価されているかを、ぜひ鵜飼社長と山本さんから、この 3 クォーター振り返って総括してどう見ればいいのかを教えていただけないでしょうか。よろしくお願いいいたします。

**鵜飼 [A]**：ありがとうございます。まず鵜飼から、全体的なお話をします。CVJ アクスルの方が減収ですが増益になっている大きな要因の中で、やはり構造改革の影響が、海外の生産が多いものですから、その効果が出ていることが一つと。

それと、海外の工場の中で、例えば中国の材料を欧州に送るとか。単に日本円と、ドルとかユーロの為替だけではなくて、多国間の間でのやり取りといいますか、ここでの比例費の削減効果が CVJ アクスルの方で顕著に出やすい状況にありますので、その辺の効果で、減収ですけれども増益になったと。

一方で、産業機械をベースとする軸受事業の方ですけれども、やはりここも 3 年以上、特に産業機械関係の低迷が続いているのがまだ尾を引いております。

国内で製造して、海外のマーケットに完成品を送るビジネス形態が軸受では主になっており、CVJ アクスルとは違うところです。そういう意味で、国内は事業構造改革が途上であることが一つと、それから CVJ アクスルのような形で、その効果がまだこれから発現してくるのが遅れている状況。

---

### サポート

日本 050-5212-7790  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



それと為替の影響も、CVJ アクスルのような形では、軸受の方がまだ出てこない。ということから、トータルではほぼほぼ計画の線上にあるんですけども、事業の別で言うと CVJ アクスルと軸受との差が出ている状況です。

山本さん、何か補足ありましたら。

**山本 [A]**：はい、全体感は今、鵜飼から説明があった通りで、ちょっと細かいところ申し上げます。やはり売上のところが、先ほどもご説明しましたが、半導体とかアルミ工場の火災の影響で、特に CVJ アクスルの売りの方が落ちたと。

それから軸受の方も、やはり当初の想定よりは、売りがマイナスになったと。その分の利益減が為替の方がプラスでございましたので、そこで打ち消したというのが全体感です。

それと事業別に言いますと、やはり今鵜飼も申し上げました通り、CVJ アクスルの方が、変動費の削減等々、やはり構造改革も進んでおりましたので、そのプラスが想定よりも出てきたというのが実態です。よろしいでしょうか。

**佐々木 [Q]**：ありがとうございます。そういう意味ですと、まとめますと需要環境は CVJ も軸受も厳しかったんですが、おっしゃる通り構造改革効果が CVJ では出てきたので、これは好進捗で、なので今回、計画の入り繰りも CVJ は得られたと。

ただ、軸受はまだ構造改革効果が出てきているわけではないので、むしろその事業環境はちょっと想定よりも厳しかったので、今回、通期計画も見直して少し下げて、全体としてはこの3クォーターは計画にインラインだった。そういう理解の仕方でよろしいですかね。

**鵜飼 [A]**：はい、結構です。

**佐々木 [Q]**：はい。クリアです。ありがとうございます。

2 点目がそこに合わせて細かい数字ですけども。いつもいただいているこの増減益要因の数字で、4 ページになります。この数字がもし、CVJ と軸受で分けた数字があれば教えていただけないでしょうか。どうぞよろしく願いいたします。

**山本 [M]**：山本からお答えいたします。これ利益の分析でよろしいですね。

**佐々木 [M]**：そうです、こちらの4 ページのところの CVJ と軸受で分けた数字をいただけると助かります。

---

## サポート

日本 050-5212-7790  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



**山本 [A]**：はい。まず軸受他が、前年の第3クォーターの営業利益額は95億。それから、今回の第3クォーター累計の営業利益額が67億。28億円の減益となっております。

それで、まず為替はプラス3億と非常に影響が少なかったと。それからこれ毎回、ご説明しているんですが、要は在庫評価が前期にぐっと原高が進んでいたんで、上がった跳ね返りですね。それも含めた規模等がマイナスで60数億ございます。

それから軸受他は、やっぱり日本の製造が多いので、人件費・経費なんかは逆にマイナスの2億。それから、変動費がプラスで11億、構造改革効果がプラスで5億、あとは関税の影響がマイナス3億で、売価レベルとしては、プラスの27億。これは日本の原高分はかなり転嫁できていると考えております。軸受他は今のよろしいですか。

**佐々木 [Q]**：はい次にCVJも同じく教えてください。

**山本 [A]**：CVJアクスルは前年の3クォーター累計の営業利益は47億、今回は126億で、78億の増益です。CVJにつきましては、先ほど申し上げましたけど、まず人件費・経費の圧縮で、プラスで24億。それから構造改革効果、軸受他は5億でしたがこちらは16億と3倍ぐらいあると。

それから変動費についても、特に米州・欧州中心に、中国品の切り替え等々で変動費がプラス71億にございます。関税の影響がマイナス9億、それと売価レベルがプラスで7億。それと規模等がマイナスの26億で、為替がこれ逆にCVJはマイナス3億というので、これ、ドルで作っているところがアメリカの規模が大きいので、そういう形になっています。よろしいでしょうか。

**佐々木 [Q]**：はい。ありがとうございます。最後に3点目にぜひ、鵜飼社長に軸受について教えていただければと思います。まさにCVJの方は構造改革がかなり軌道に乗ってきたようにも思います。厳しい需要環境の中でも、おっしゃられた努力で非常に減収増益を作れてきたということだと思いますけれども。

一方で、おっしゃられる通り軸受はまだ少し遅れている状況でして。当然外部環境で産業とか、アフターの高い利益率ものがなかなか売れないところもある一方で、構造改革の取り組みも、CVJと比べていると遅れているので収益が低迷しているということではないかなと思います。

改めて、ちょうど来年中計最終年度もある中で。おそらくこれから需要環境も追い風になるんじゃないかなとは、期待してもいいんじゃないかなって気もするんですが。このCVJに対して遅れているこの軸受の損益改善をどのように行っていく予定なのか。

ぜひ鵜飼社長が今、お考えになっていること、今後の作戦などをぜひ教えていただけないでしょうか。よろしく願いいたします。

---

## サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasias.com



**鵜飼 [A]**：はい、ありがとうございます。まず1点目の市況の認識ですけれども、一部新聞報道等で工作機械がここ直近1カ月以内ぐらいでいろんな報道があります。工作機械メーカーさんのお話の中で、売上は上がっているんですけれども、実際は高価格品とか大型品が出ていて、台数は伸びていないと。特にアメリカの中小企業を中心とした、汎用品なんかのところなかなか伸びが出ないというお話がありまして。

結果的にはそこに使われる、例えばスピンドルであれば、われわれ軸受を、一つのスピンドルで2個使いますけれども、台数が増えないと、そのスピンドルとか、結局軸受の需要が直接増えていくわけではなくて、中身が違っているといたしますか。

だから、軸受の先行指標として、工作機械の受注状況は非常に重要ですが、そういう意味で数がまだ出ていくような状況になっていないのが、現時点、足元の状況です。それがこの先行きもまだ不透明だというようなお話があります。

そういう中で、先ほどおっしゃっていただいたように、日本の構造改革を今、客先需要を含めて進めています。トランプ関税の方は大体、どうい状況かもわかりましたし、ほぼ転嫁が可能であるということで動いています。

もう一方でEVの動き、この辺との絡みもあって、再編成をどうしていくかというところはかなり新規にEVで使おうとしている新たな商品、こういうものが今、計画よりも1年、2年遅れてきていることを含めて、それをどの工場で作って、例えば、ボールベアリングを和歌山の工場とかに一つにまとめていこうという動きをしています。

まとめる過程で出てくるスペースとか、経営資源を、新しい商品に充てていこうというような計画をずっと組んでやってきているんですけれども、市況の変化によって、少し計画が遅れてきているところがあります。

ただ、これもいつまでもそこでとどまっていられませんので、この次の26年度にかけて、できるだけ今期、入れ込める部分は引き当てをすると同時に、26年度に具体的な動きが取れるように今進めているところです。

もう既に、次の中期計画の策定に入っているんですけれども、アフターマーケットにつきましては、前回以前からもご説明をしておりますように、自前主義だけではなくてODMを使って、各ローカルのメーカーさんで、われわれがきちっと技術認定、技術認証ができるメーカーさんから、われわれが購入したものを、適切なアプリケーションに対して、商売、販売を広げていこうという活動を強化しておりますので、ここを含めて、補修は確実に伸ばしていきます。

---

## サポート

日本 050-5212-7790  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

OEM につきましては、航空機向け軸受についてはかなりの伸びが期待できますが、まだ一番メインである建設機械、それから変減速機も少し回復が見られてきていますけれども、まだまだちょっと弱い状況になっていますので、この辺をしっかりと、フォローできるようにしていきたいと考えています。以上です。

**佐々木 [M]**：クリアな説明どうもありがとうございました。私から以上です。

**長尾 [M]**：佐々木様、どうもありがとうございました。他にご質問のある方はおられないでしょうか。

野村證券の王様、ご質問をよろしくお願いいたします。

**王 [Q]**：野村證券の王でございます。ご説明いただきましてありがとうございます。

1 点目は構造改革の部分ですけれども。CVJ アクスルは、ご想定よりも上振れて進捗されているという理解でいいのでしょうか。そうすると、トータルで何か見通しを引き上げる可能性というところは、構造改革効果として見通しを引き上げる可能性はございますでしょうか。

**山本 [M]**：今のご質問は構造改革効果、50 億円、今期見ておるんですけど、その効果額を上げるというそういう意味ですか。

**王 [Q]**：構造改革効果ってその項目だけでなく他にもちょっと分散しているものもあるとは思いますが、今、CVJ アクスルの見通し引き上げられているので、ちょっと全体的にその目線感って変わってらっしゃらないのかなという趣旨でお伺いしています。

**山本 [A]**：わかりました。まず前提としまして、この構造改革効果というのは、構造改革を行った事業所での固定費の削減額、これだけに限っております。先ほど利益分析等でもございましたが、やはり CVJ アクスル、この構造改革も含めて比例費の削減、これがかなり進捗しておりますので、その分で今回見通しを引き上げたのが今の状況です。よろしいですか。

**王 [Q]**：ありがとうございます。なので、構造改革の項目だけは変わらないという理解でよろしいですか。

**山本 [A]**：そうですね。それはもう固定費の削減というのはそんなに大きく振れるものではございませんので、この効果自体は大きく変わらないと見ております。

**王 [Q]**：はい、ありがとうございます。そうするとちょっと繋がるんですけども、比例費の効果は、今回修正されてらっしゃらないので、プラス 60 で通期見てらっしゃるんですけども。結構、第 1 クォーターから第 3 クォーターにかけてだいぶプラスで出てきていて、差し引くと、第 4

---

## サポート

日本 050-5212-7790  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

クォーター、マイナス 22 みたいになってしまうんですけども、これはちょっと修正されてないだけっていう理解でよろしかったでしょうか。

**山本 [A]**：そうですね。保守的に修正はしていません。

**王 [M]**：はい。わかりました。私からは以上です。ありがとうございます。

**山本 [A]**：はい。ありがとうございました。

**長尾 [M]**：はい。王様、どうもありがとうございました。その他ご質問のある方はおられないでしょうか。大和証券の田井様、ご質問よろしく願いいたします。

**田井 [Q]**：田井です。一つ目は、ちょっと大きな話かもしれませんが、半導体不足とか、もっとその DRAM の不足による自動車産業への影響というのが、ちょっと一部でささやかれ出したりしているんですけども。何か御社に対する引き合いとか、お客さんとのコミュニケーションの中で、何か影響というか、変化が出てきていることはございますでしょうか。

**鶴飼 [A]**：鶴飼でございます。今の田井さんのご質問は、この先という形だと思うんですけども。先ほどちょっと山本のパートでご説明しました、半導体の件はまだ尾を引いておまして。これがやはり、われわれが一番、日本の自動車メーカーさん取引の多い会社さんが一番大きな影響を受けられて、北米生産を挽回するために、日本とか中国の半導体を北米に送られて、逆にそれを北米以外のところの生産を落とされたり、調整をされたりしているという、まだ足元でそういう状況がありまして。

それによって、先ほど棚卸資産等につきましても、この影響がまだ残っていますし、アルミニウム工場の火災につきましても、北米地区で特にその影響が出ております。

ただ、今、田井さんが多分ご質問されたのは、これから先に汎用関係の半導体の不足が一部で言われていることに対して、弊社への影響はどうかというご質問だと承りました。それにつきましては現時点では、われわれのところでの影響はまだ出ていない状況です。

**田井 [Q]**：なるほど、わかりました。うんそうです。本当に普通の汎用のメモリーが今足りなくなって、今今は多分大丈夫だと思うんですけど。ひょっとしたらという話が出していると思うんですが、今はとりあえず大丈夫ということですね。わかりました。

あともう一つ、価格なんですけど、値上げのお話ですが、これもその需要環境とのバランスとか綱引きもあると思うのでなかなか難しいのかもしれませんが、3カ月前、半年前に比べて、自動車と、それから産機それぞれにおいて、お客さんの値上げに対するリアクションで何か変化というのは出

---

## サポート

日本 050-5212-7790  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

てきてますでしょうか。必ずしも悪いほうじゃなくて、良いほうで、もし変化があればご紹介いただければなと思ったんですが。

**鵜飼 [A]**：まず自動車関係では従来から一部不採算のものがあってこれについては、最大限われわれができる限りの原低努力はした上で、価格改定を申し入れる活動は継続してやっております。

もう一方で、トランプ関税をどこまで回収できるかということでの、別の角度からの交渉もずっと特に今年度、進めてまいりましたので、なかなかその不採算のところには、認めていただけないケースもまだ残っています。ここについては原低を並行してやると同時に交渉を続けている状況です。

ただ、産業機械関係とかアフターマーケットにつきましては、特にアフターマーケットは定価表ですので、われわれとしては確実に年内で複数回の、改訂をして、値段の適正化を図っていくことを進めております。

産業機械でも、特に日本の国内では、経産省を含め中小企業庁、それから公取等が入ったインフレーションの適切な売価への転嫁というこの活動の中で、まだまだ厳しい会社さんも残っておられますけれども、以前に比べて、インフレ部分の値上げ活動については進めやすくなっている状況だと認識しています。以上です。

**田井 [M]**：わかりました。ありがとうございます。とりあえず私からは以上です。大丈夫です。

以上です。

**長尾 [M]**：田井様、どうもありがとうございました。その他ご質問ある方はおられないでしょうか？

ありがとうございます。それでは終了のお時間まで少しまだお時間ございますが、以上もちまして弊社 NTN 株式会社の決算 IR 説明会を終了いたします。本日はご参加いただきまして誠にありがとうございました。ありがとうございました。

[了]

---

## 脚注

1. 音声不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載
2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す

---

## サポート

日本 050-5212-7790  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

## 免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、SCRIPTS Asia 株式会社（以下、「当社」という）は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて利用者の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して利用者が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

---

## サポート

日本 050-5212-7790  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com